

京都市立養正小学校 学校ニュース 学校評価 平成29年3月13日

校長 杉森 德行

TEL791-7184 FAX791-7185

URL <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/yousei-s/> E-mail:yousei-s@edu.city.kyoto.jp

学校教育目標 「子どもの良さや可能性を最大限に伸ばす養正教育の推進」

学校評価の結果について

1月に、全校児童（低学年〈1, 2, 3年〉, 高学年〈4, 5, 6年〉に分類）、保護者、教職員に学校評価のアンケートを実施しました。児童のアンケートは、学校での学習や約束のこと、生活習慣のことなど25項目、保護者、教職員には、子どもについて、学校について24項目の質問をしました。アンケート結果を基に考察し、これまでの成果と課題についてお知らせします。

それぞれの項目について、重要度、実現度を回答してもらいました。（低学年児童は、実現度のみ）以下、グラフ等では、それぞれの質問に対する選択肢を次のとおりに示しています。

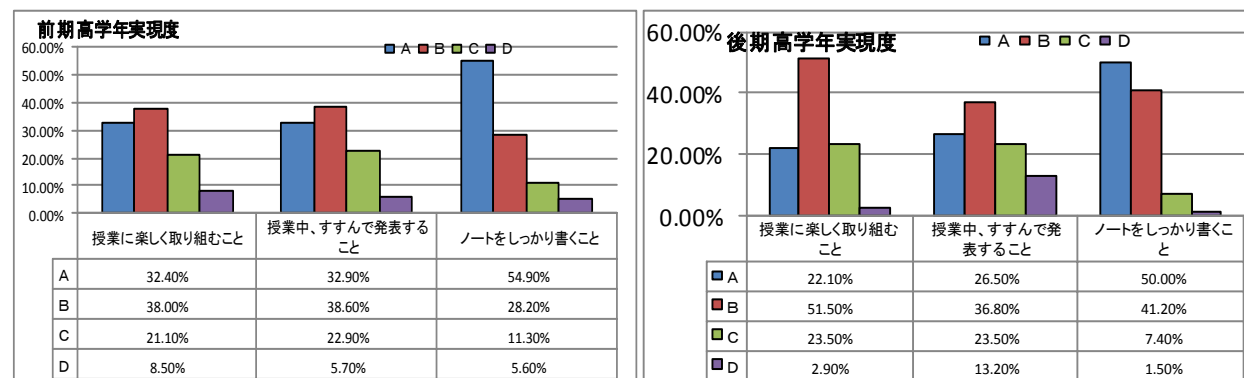
重要度：A重要である Bやや重要である Cあまり重要でない D重要でない

実現度：Aよく出来ている B 大体出来ている Cあまり出来ていない D出来ていない Eわからない

後期の学校評価のアンケートは、前期のものと同じ内容になっていますので、後期の内容を前期と比較しながら考察しました。

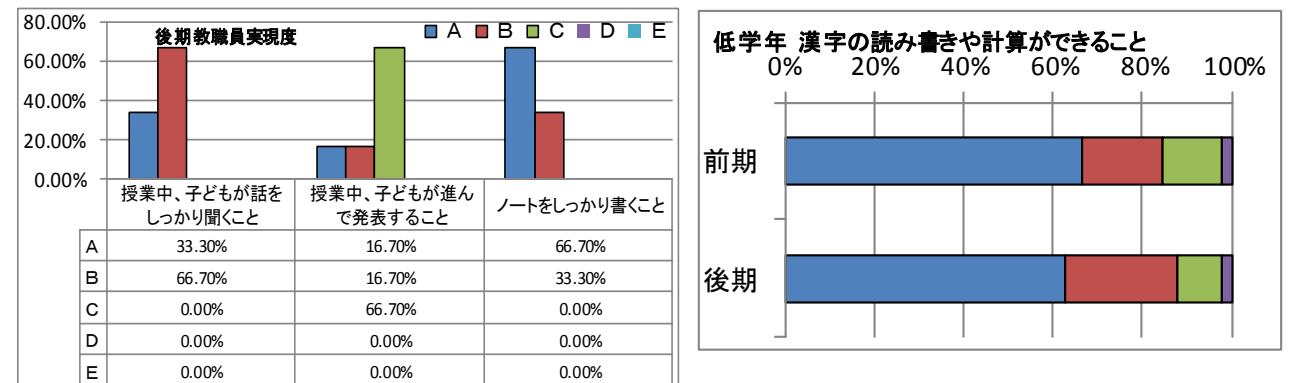
学習面について

今年度、学校で一貫して取り組んできたことが、毎日の授業の中で『言葉の力』を身に付けることです。「読むために書く、書くために読む」ことを国語以外の教科でも取り入れてきました。下のグラフを見るとそれらの取組の成果が現われてきています。



約90%の高学年の児童たちは、「ノートをしっかり書く」ことが「よく出来ている」「大体出来ている」と答えています。これは前期に比べると8%近く増えています。また、「授業に楽しく取り組むこと」でも高学年児童の約73%が「よく出来ている」「大体出来ている」と答えています。これは前期に比べると約3%増えています。前期アンケートの実施時期は、学年のスタート後しばらくの時期で意欲に満ちていて、様々な行事に向かって目標を立てる時期です。それに比べて、後期のアンケート実施時期は、1年間のまとめの時期であり、自分が取り組んできたことへの反

省の気持ちから、前期に比べるとマイナス傾向が出がちです。その中で、プラスの結果が出ている点は、本校児童が今年度頑張ってきたことが身に付き、それが学習への意欲につながっていった結果と思えます。教職員のアンケート結果も同じ傾向が見られ、前期に比べると「授業中、子



どもが話をしっかり聞くこと」と「ノートをしっかり書くこと」の項目で、「よく出来ている」「大体出来ている」と答えた教職員が100%でした。これは前期に比べると大幅にプラスになりました。

養正小学校では、授業の中で問題や課題について「答えが分かる」だけではなく、「その答えになった自分の考えの道筋を友だちに分かるように話す」ということを大切にしています。学年に応じて、ペアやグループ、学級全体で「考えを伝える」活動を授業の中に取り入れています。友だちに自分の考えを説明することによってより理解が深まり、友だちの考えと同じか違うかなどの視点で話し手に感想を伝えることで友だち同士のつながりが深められると考えています。そのような学習の進め方をしているので、後期アンケートでは、「授業中、すすんで発表すること」という設問についての「よく出来ている」「大体出来ている」という回答が低くなっているようです。「自分の考えを分かりやすく相手に話す」というプレゼンテーションの力を伸ばすことは、今後、進学したり社会に出たりしたときに必要とされてきます。その素地を育むのが小学校の期間です。「今の説明は、分かりやすかったよ。」「～のところは、お母さんも同じ意見だよ。」など、ご家庭でも子どもたちの意見に耳を傾け、一人の人間として感想を伝える機会があると、子どもたちはますます話したいという気持ちになると思います。

低学年の「漢字の読み書きや計算ができること」の項目では、「よく出来ている」「大体出来ている」と回答している子どもが約3.5%増えました。毎日の学習の中で「出来る」ことが増えていくことが子どもたちの喜びになり、次への意欲になるのだと改めて感じます。漢字の読み書きや計算は努力したことが形になって現れますので、日々の宿題や課題にこつこつ向かえるようにご家庭で「丁寧に書けているね。」「昨日より速くできたね。」など具体的な良い点を褒めることも大きな励ましになることと思います。学校では、年に2回「漢字検定」や年に1回「算数検定」を土曜日の課外学習で実施しています。どんどん上の級を目指してチャレンジすることで、自分で学習課題を見つけ学習していく自学自習の習慣が育つと考えています。

規範意識について

次のグラフは、「学校や学級のルールを守る」ことについて尋ねた結果です。高学年の子どもたちは前期に比べ少しですが「よく出来ている」「大体出来ている」と回答している子どもが増えて

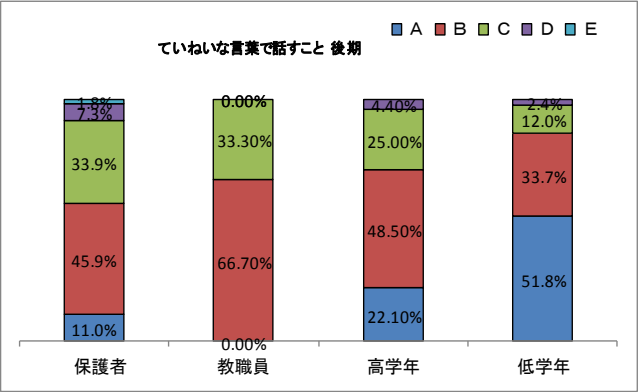
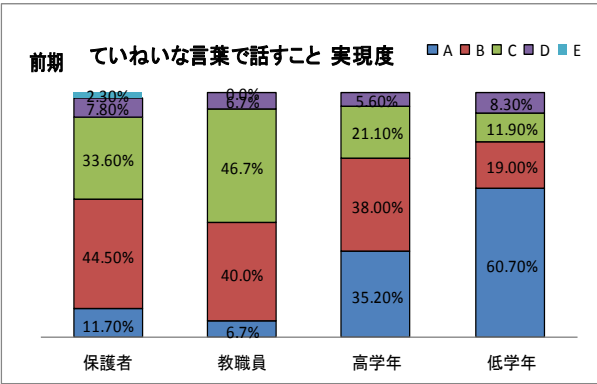
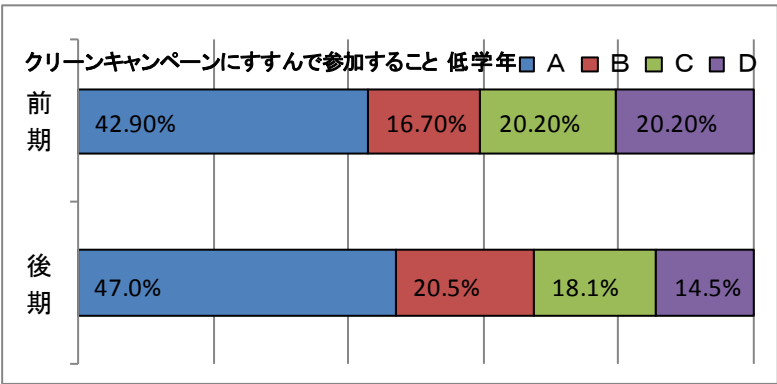
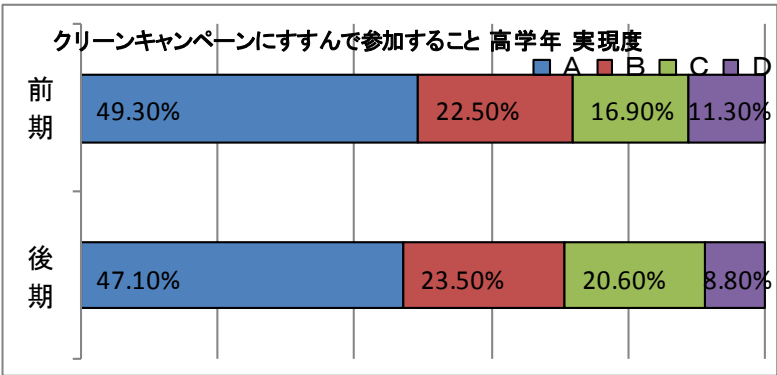
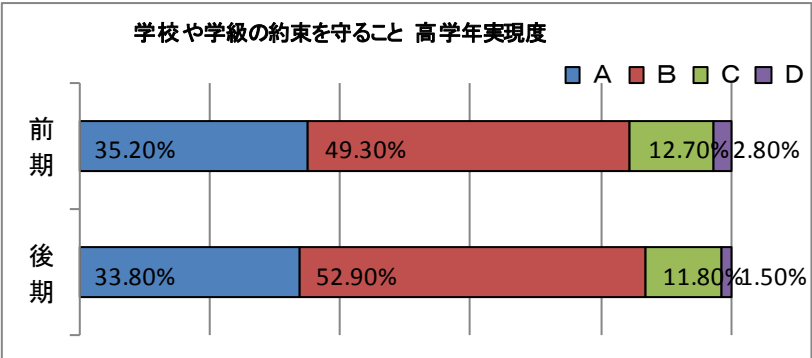
います。

前期の学校評価でもお伝えしましたが、児童会の子どもたちを中心として「～しよう」という児童会目標を毎月立てて、呼び掛けることを続けてきたことが、ルールに対する意識を高めることにつながってきているようです。

また、前期・後期の児童会が続けて呼び掛けていたことが「クリーンキャンペーン」です。この活動は、毎週水曜日の始業前の時間に、学校の前にある飛鳥井公園のごみ拾いをする取組です。公共の場所をきれいにする活動など、多くの人のために自分ができることを目に見える形で実行することは自己肯定感につながります。アンケートでは、高学年と低学年が逆の結果になりました。これは、高学年では、クリーンキャンペーンに参加しようと思うがゆえに行けていないことへの反省の気持ちから、「出来ていない」「あまり出来ていない」と回答しているようです。しかし、低学年のアンケート結果からは、高学年の子どもたちが熱心に活動している姿を見て、低学年の子どもたちの参加が増えていると考えられます。

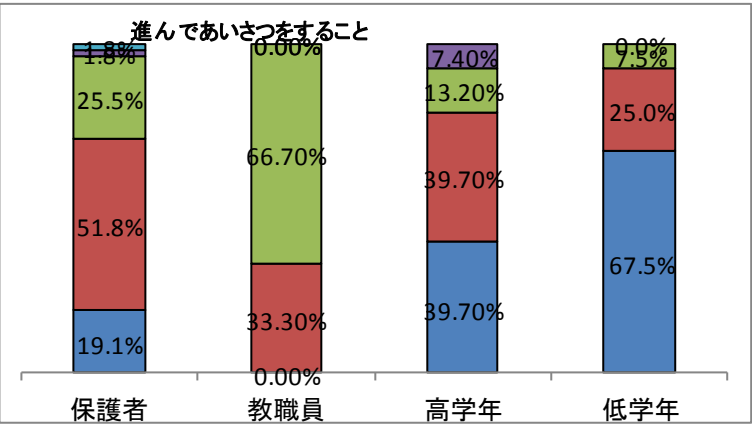
生活面について

右のグラフは、後期保護者のアンケートで2番目にニーズ度が高かった「ていねいな言葉で話すこと」についての結果です。前期と比較しますと保護者・高学年・低学年の自己評価はあまり変化がないのですが、教職員では「大体出来ている」という割合が高くなっています。このことから、学校などの公の場ではきちんと丁寧な言葉で話しているが、友だち同士の場面などでは言葉遣いが乱暴になったり、ぞんざいな言い方になったりしている可能性のあることが考えられます。



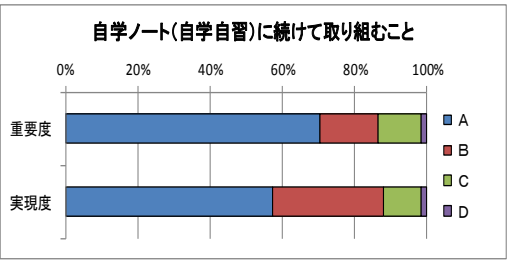
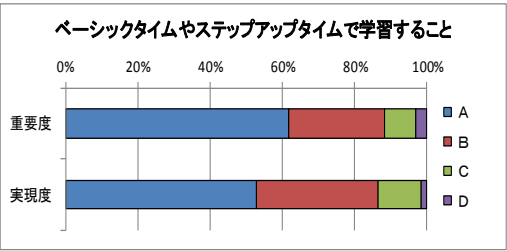
ていねいな言葉で話すことは、お互いの信頼関係を築く上で大変重要なポイントです。日々の何気ない言葉でも言い方によって相手に与える印象が変わるということを子どもたちに気づかせていくことが大切です。

また、「すすんであいさつをすること」の項目でも、保護者・高学年・低学年と教職員の傾向にずれがありました。これは、「すすんで」「聞こえる声で」挨拶をする子どもを育てていきたいという願いの表れのようにです。PTAでは、毎月の「声かけ運動」や「交通当番」で朝の登校時に「おはよう」の声をかけています。地域の方々にも挨拶の声をかけていただいている姿もよく見かけます。子どもたちの意識を高めるためにも、教職員が率先して挨拶することを心掛けていきたいと考えています。そして、子どもたちが意識しなくても自然に挨拶の声が大きくなるようにしていきたいものです。

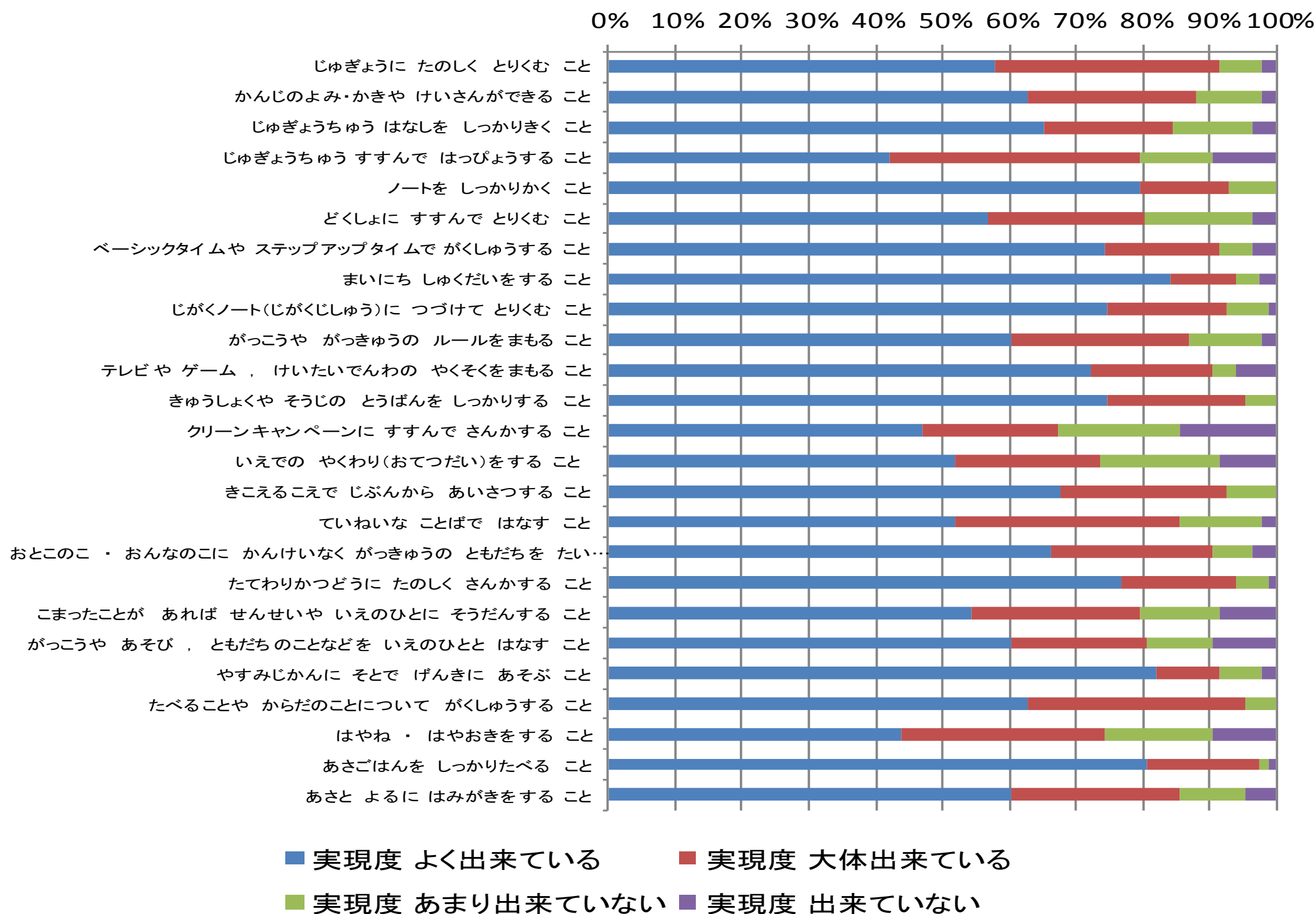


学校運営協議会より

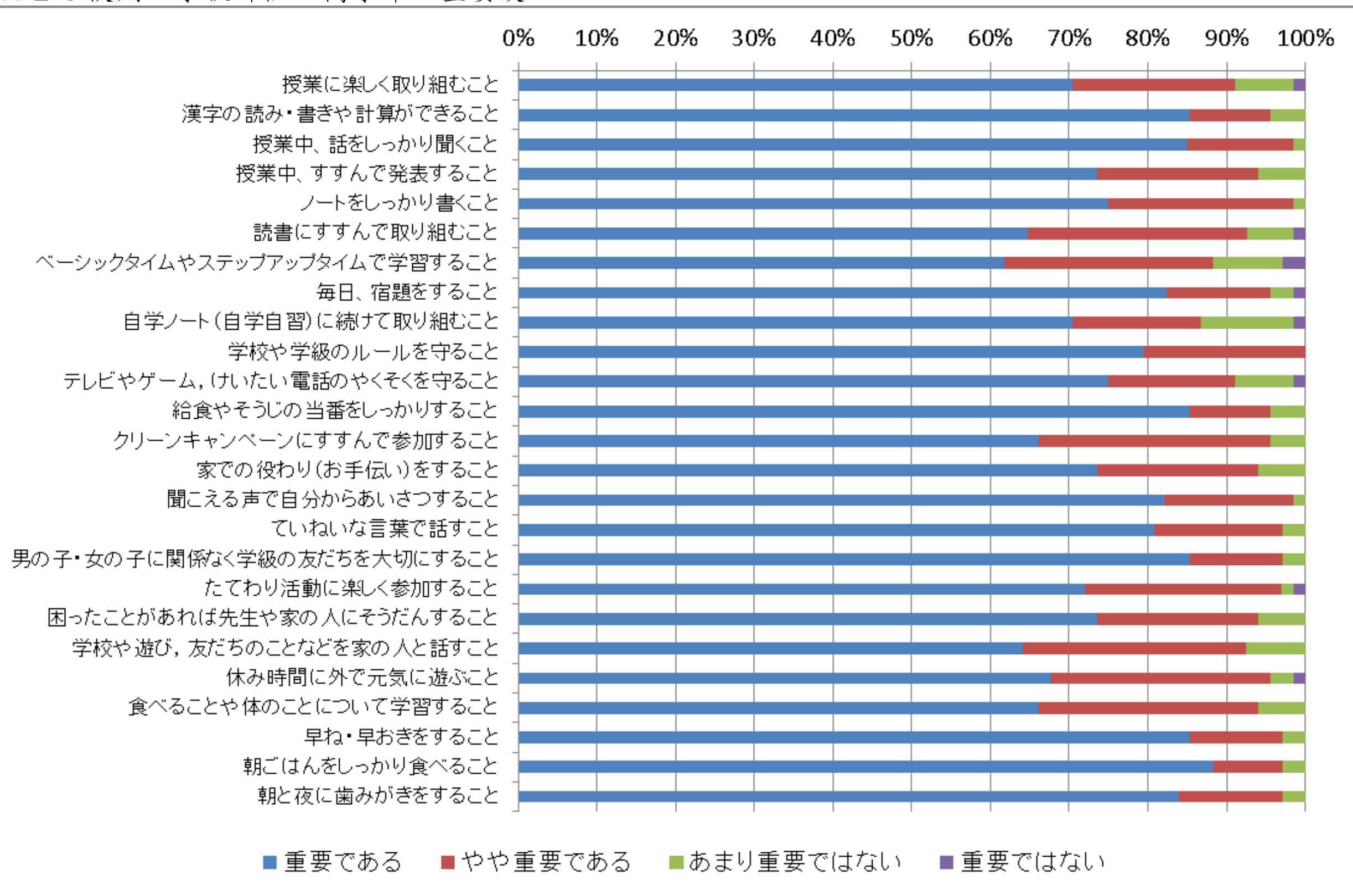
学校運営協議会では、不登校について話題になりました。一般的には、年齢が進むと学習面でのつまずきから不登校になる割合が増えるといわれています。本校では基礎基本の習熟のためにベーシックタイムや自学ノートに取り組んできています。高学年の子どもたちのアンケートを見ると80%以上の子どもが「出来ている」「大体出来ている」と答えていますが、引続き学力向上に向けて学校での取組を進めていきたいと考えています。また、来年度に向けて、スタンプラリーやもちつき大会、放課後まなび等で地域の方々との繋がりを持ち、子どもたちを共に育てていきたいと思います。



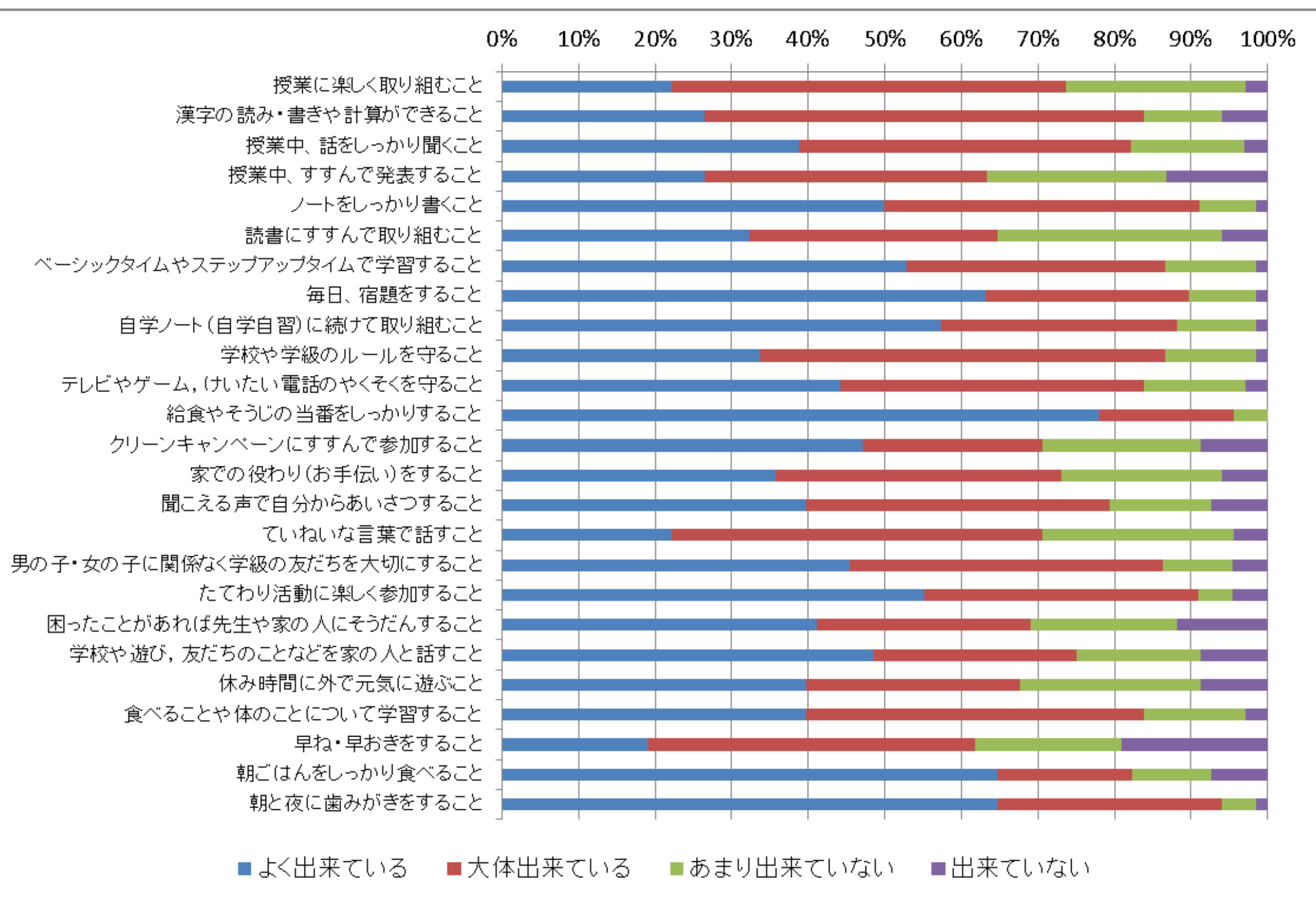
H 2 8 後期 学校評価 低学年 実現度



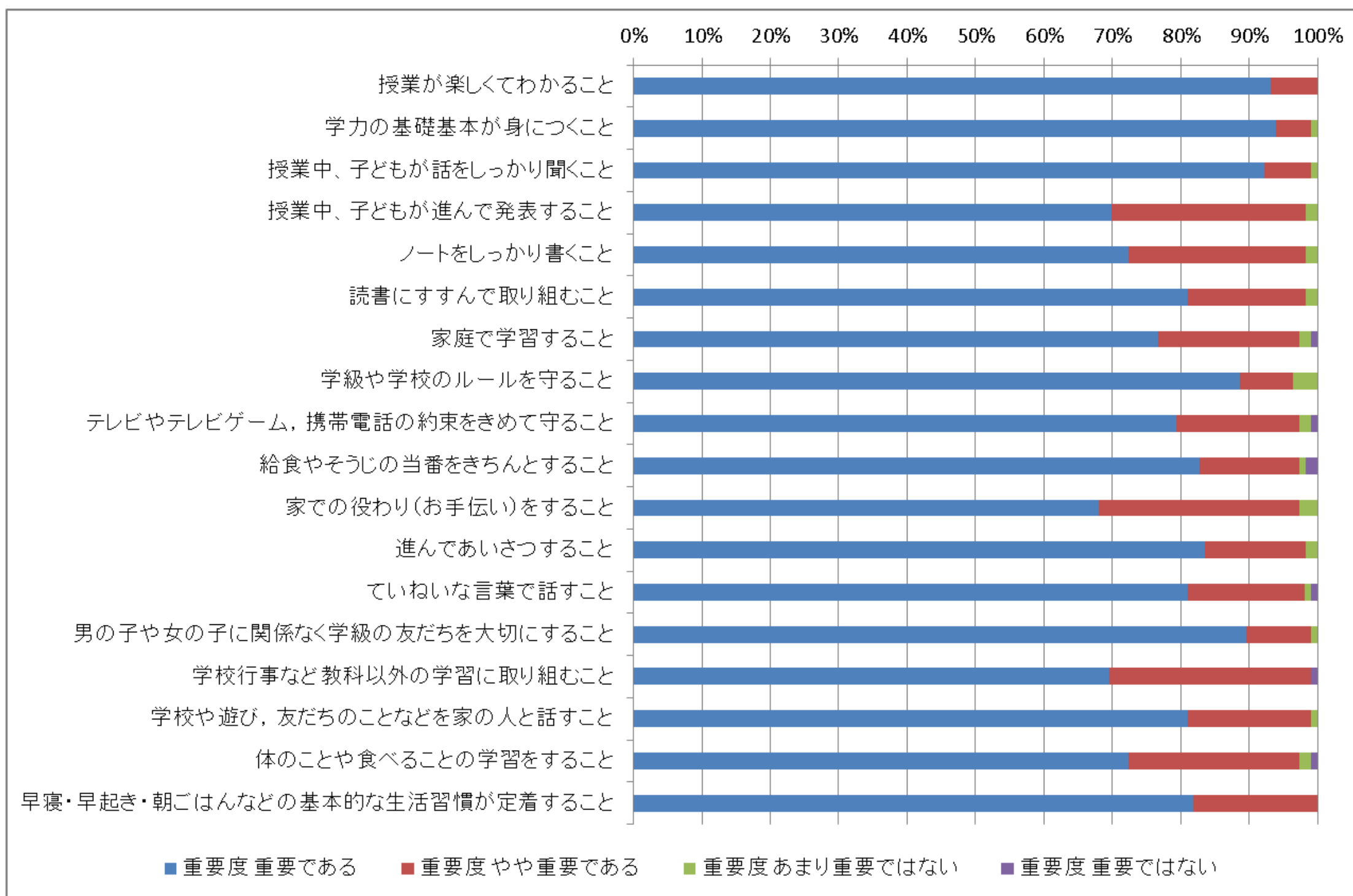
H 2 8 後期 学校評価 高学年 重要度



H 2 8 後期 学校評価 高学年 実現度



H 2 8 後期 学校評価 保護者 重要度



H 2 8 後期 学校評価 保護者 実現度

